

今後の大学IR業務の必要性について(文部科学省中央教育審議会より)

今後の高等教育の将来像の提示に向けた中間まとめ【概要】

平成30年6月28日 中央教育審議会大学分科会将来構想部会

出典：一部抜粋

教育の質の保証と情報公表

- **教学マネジメントの確立とその前提としての学修成果の可視化**
(教学マネジメント指針の策定、大学に対する学生の学修時間等の学修成果等の情報公表の義務付け、産業界等の採用プロセスにおける当該情報の積極的な活用)
- **入り口での設置認可と認証評価制度の改善**
恒常的な情報公表の促進



将来を見据えた
大学IR業務の必要性が
高まっています。

<具体的な方策>

● **教学マネジメントの確立**

- ・成績評価基準の適切な運用、学生個人の学修成果の把握、学修時間の確保と把握、学生による授業評価
- ・教学IR体制の確立
- ・情報公表の項目や内容等に係る解説 等

● **情報公表**

- ・教学マネジメントの確立に当たっては、学生の学修成果に関する情報を的確に把握・測定し、教育活動の見直し等に適切に活用する。
- ・大学教育の質の向上に係る情報を積極的に把握・公表していくことが重要である。
- ・学修成果・教育成果の可視化に係る情報
- ・入学者選抜の状況、修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年率、中途退学率、等
- ・GPAの活用状況、IRの整備状況、教員の業績評価の状況 等

● **認証評価制度**

- ・今後、学修成果や教育成果等に関する情報公表が各大学に義務付けられた際には、共通の定義に基づいて整理された各大学における学修成果や教育成果等のデータを相対的に活用し、人材育成目的や規模が近い大学同士の比較や、経年比較による改善状況の確認をする。
また、教学マネジメントに係る指針や情報公表の仕組みが整備された際には、積極的に活用していくことを検討する。

大学IR・教学マネジメント業務における弊社がご提供できる付加価値について

今後の高等教育機関の将来像を考えて

大学IR・教学マネジメント業務の必要性は

PDCAサイクル



大学教育改革で必要とされる課題点

- ① 教学マネジメントの確立
 - ・現状把握
 - ・分析用データの一元化 → 基幹システムの高コスト問題
- ② 学修成果の可視化 → 高度専門職の人材不足
 - ・分析方法
 - ・アウトプット
- ③ 分析業務定常化
 - ・PDCA
- ④ 高度専門職育成 → 育成の長期化
- ⑤ 大学運営競争 → 「少子化対策」
 - ・情報公表
 - ・ベンチマーク
 - ・マーケティング → マーケティングノウハウの(経験)不足

弊社の付加価値：高度専門職チーム

- ① データ一元化
 - ・ICTシステムに精通した高度技術者（大手ICT企業出身）
 - ・データベーススペシャリストのサポート
- ② 可視化方法
 - ・『深耕分析』※弊社独自の手法
 - ・統計士、データ分析スペシャリスト
- ③ 分析業務・定常化支援
 - ・PDCA
 - 他業種での改革・改善業務支援の実績豊富な高度専門職のサポート（大手コンサルティング企業出身）
- ④ 大学運営競争
 - ・他業種での豊富なマーケティング業務実績